

平成 27 年度中学校武道授業（合気道）指導法研究事業



平成 27 年度中学校武道授業（合気道）指導法研究事業は 2 月 12～14 日の 3 日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで行われた。本研究事業は平成 24 年度から完全実施された中学校保健体育科における武道授業の充実に向けて、合気道の特性を踏まえた指導計画、指導内容、指導法、評価などについて研究協議するものである。

■ 1 日目（12 日）

14 時より開講式が行われ、はじめに栗林孝典合気会渉外部長が挨拶を述べた。

「平成 24 年度から中学校で武道が必修化されましたが、合気会としても日本武道館の支援を受けまして、徐々にではありますが、採用していただく学校が増えてまいりました。現時点で 43 校に採用されております。まだまだ他種目に比べると十分とはいえませんが、このような機会を活用して、複数種目を採用する際には合気道を取り入れてもらうよう中身の充実を図っていききたいと思います。3 日間とい

う短い期間ではありますが、ご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます」

続いて、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が挨拶に立った。

「平成 24 年度に中学校で武道の必修化が始まって 4 年が経過し、大きな事故もなく、順調に実施されています。実施率は柔道が 6 割強、剣道が 3 割強、合気道他が 1 割です。日本武道協議会では外部指導者の活用と複数種目の実施を武道振興大会の決議内容に盛り込んで、国や地方の教育委員会にお願いをしています。いよいよ来年度から 5 年目を迎え、中身が問われます。目標は合気道の素晴らしさで中学生を元気に立派に育てることです。年間 10 時間強の授業時間数といった条件や指導者の問題など、課題は多くありますが、先生方の一致協力ですべて前に進めたいと思います。お互いに技を通して相手と高め合う合気道の精神と技法は、中学校の教育に適していると考えています」

開講式後は全国の中学校保健体育科教員の合気道

5 時間で行う場合の授業例 (案)

【第一学年】

●1 時間目

- 1 オリエンテーション
- 2 正座、礼法、構え
- 3 後ろ受身
- 4 片手取つかみ方
- 5 角落し (崩しまで)

●2 時間目

- 1 後ろ受身
- 2 角落し (投げまで)
- 3 相半身片手取り (つかみ方、鍛錬法)
- 4 小手返し

●3 時間目

- 1 後ろ受身
- 2 角落し、小手返し (復習)
- 3 抑え技の体験 (第一教)
- 4 相半身正面打ち第一教 (表)

●4 時間目

- 1 後ろ受身
- 2 角落し、小手返し、第一教 (復習)
- 3 呼吸法

●5 時間目

- 1 演武説明
- 2 入退場練習
- 3 自由練習
- 4 演武会
- 5 まとめ

【第二学年】

●1 時間目

- 1 オリエンテーション
- ◎一学年の復習
- 後ろ受身、角落し、小手返し、第一教
- 2 呼吸法

●2 時間目

- 1 体捌き
- 2 逆半身片手取り四方投げ (裏)
- 3 正面打ちの打ち方
- 4 呼吸法

●3 時間目

- 1 四方投げ裏 (復習)
- 2 相半身正面打ち第一教 (表)
- 3 相半身片手取り入身投げ (転回足)
- 4 呼吸法

●4 時間目

- 1 四方投げ、一教、入身投げの復習

●5 時間目

- 1 演武説明
- 2 入退場練習
- 3 自由練習
- 4 演武会
- 5 まとめ

【第三学年】

●1 時間目

- 1 オリエンテーション
- ◎復習
- 2 四方投げ (裏) (復習)
- 3 逆半身片手取り四方投げ (表)
- (4 呼吸法)

●2 時間目

- 1 四方投げ (表・裏) (復習)
- 2 入身投げ (転回足) (復習)
- 3 相半身片手取り入身投げ (転換足)
- 4 呼吸法

●3 時間目

- 1 入身投げ (転回足・転換足) (復習)
- 2 相半身正面打ち第一教 (表) (復習)
- 3 相半身正面打ち第一教 (裏)
- 4 呼吸法

●4 時間目

- 1 全ての技の復習
- 2 自主学习
(演武会で演武する技を選択)

●5 時間目

- 1 演武説明
- 2 入退場練習
- 3 自由練習
- 4 演武会
- 5 まとめ

授業導入を推進するために開設予定のホームページの内容について、検討協議が行われた。

中でも専門外の教員がイメージしやすいよう、合気道の特性を表現するにあたって、もっとも強く印象を与えられる言葉の選択を中心に検討が重ねられた。また、合気道の説明について保健体育科授業に適切な表現が協議された。

■ 2 日目 (13 日)

日本武道協議会 40 周年記念『中学校武道必修化指導書 (3 巻 DVD 付)』の掲載内容について協議が進められた。複数種目採用をにらんで、現在発行されている『中学校体育実技指導資料 合気道指導の手引』(公益財団法人合気会発行・平成 24 年)の内容の抽出を前提とし、5 時間の授業例を掲載することを本筋とし、3 学年 5 時間分の指導案を考案。その後、掲載内容の詳細について、指導書に沿いながら、より良い表現に改めていく作業を行った。

■ 3 日目 (14 日)

前日に引き続き、掲載内容の詳細について検討が行われ、その後、閉講式に移った。

はじめに栗林孝典合気会渉外部長が挨拶に立った。「3 日間集中して討議することができました。このような機会を作っていただいたことを日本武道館の皆様へ感謝申し上げます。まだまだ学校現場での指導について、さらに研究しなければならない部分もあり、課題が山積みだと考えております。元気な中学生を育てるために頑張っておりますので、今後ともご指導いただきしたいと思います」

続いて吉川英夫日本武道館振興部長兼振興課長が挨拶を述べた。

「合気道の真髄を噛み砕き、どう安全に中学校で指導をしていくか、普段の指導内容を言語化する難しさを感じました。また中学校での導入状況をお聞きして合気道の良さを別の観点から知ることができました。今後ともお手伝いできればと考えております」

以上をもって研究事業の全日程が終了した。